まるこやま

第49号

平成30年5月20日

〒699-1251
雲南市大東町大東2419-1
大東交流センター
TEL(0854)43-2130
E-mail:daito-c@hotaru.yoitoko.jp

大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会

飛翔
巣立ち まじか

国の特別天然記念物 コウノトリが昨春と同じ電柱に営巣し、今春も4羽のひなが誕生しました。

親鳥が交代で餌を捕りに行き、巣に戻ってひなに与える様子が見られるようになりました。

4羽のひなはすくすくと育っています。順調に育てば6月下旬から7月上旬に巣立つとみられます。

親鳥の雌「ポンスニ」・雄「げんきくん」

5月16日撮影

食事まだかな

蛇を食べるひな

飛ぶ練習

もうすぐ巣立ち

"住み良い大東"のために

大東地区福祉委員会委員長　福間　崇郎
（大東地区自治振興協議会福祉部）

この度、平成３０年度から２年間大東地区福祉委員会の委員長をお引き受けしました新庄南の福間崇郎です。もとより浅学非才な私のこと、皆様方の格別なご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

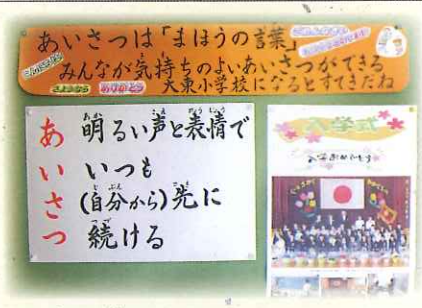
さて、「地区の福祉活動」につきましては、４年余り離れていましたので、活動のひとつひとつを思い起こし、役員、事務局の皆様と話し合いながら実行致します。

ところで、私の民生委員時代のある先輩が話されたことを時々思い出します。それは「福間君、住み良い大東は・・・・・」「自分達でつくらないと、他の誰もつくってはくれないよ・・・」と。然らば「住み良い大東を自分達でつくるとは・・・？」経済力、経済環境、自然災害等々人の価値観によっていろいろあるでしょうが、他人任せ、他人頼みだけでは良くなりません。例えば木次線の存続問題にしても「木次線の列車に乗って，そして存続を叫ぶべきでは・・・・」と思います。

過疎化を嘆くばかりではなく、せめて「住めば都」といえる穏やかな地区であるように一緒に学び行動いたしましょう。

「あいさつ」は魔法の言葉!
「わくわく　ドキドキ　心地よく」

大東小学校　校長　村尾　隆晃



新学期が始まり早１か月、毎朝おしえばしのたもとで子どもたちの登校を出迎えていると、子どもたちのあいさつがこの１か月で少しずつ気持ちの良いものに変化していることを感じます。たまにうつむいて元気のないあいさつが返ってくると、「今日はどうしたのだろう？身体の具合がよくないのかなあ？とか昨日学校でいやなことがあったのかなあ？」などと心配になります。校長室前の掲示スペースには「みんなが気持ちの良いあいさつができる大東小学校になるとすてきだね」ということで

あ…明るい声と表情で
い…いつも
さ…（自分から）さきに
つ…つづける

と私からのメッセージを新学期当初からはりだしています。どうか地域でも子どもたちのあいさつが良くなって明るい毎日が過ごせますようご支援･ご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。

今年度、大東小学校が『わくわくドキドキ心地よく』を合言葉に

わくわく …明日の登校が楽しみで「わくわく」し
ドキドキ …たくさんの出会いと発見があって「ドキドキ」し
心地よく …安心･安全で自分の居場所があって、心地の良い

「満足度日本一の小学校」となっていくようチーム大東小として教職員一丸となって子どもたちと向き合っていきます。保護者の皆さんや地域の方々のご理解とご協力のもと共に手を携えて取り組んでいきたいと考えていますのでどうかよろしくお願いします。

資料：雲南市HPより

平成30年4月末現在の人口･世帯数【（）内は対前々月比】	項　目	総人口	男性	女性	世帯数	高齢化率
	雲　南　市	38,882人（▲250人）	18,720人（▲110人）	20,162人（▲140人）	13,811世帯（▲15世帯）	37.82%（+0.22%）
	大　東　町	12,415人（▲72人）	6,027人（▲33人）	6,388人（▲39人）	4,177世帯（▲6世帯）	37.66%（+0.28%）
	大東地区	3,615人（▲9人）	1,730人（▲1人）	1,885人（▲8人）	1,256世帯（▲1世帯）	―

大東の街並みの人々が集うきっかけ創りプロジェクト

うんなん大東ぐみ　小山　　朋

近年、大東町商業地においては稼業を担う跡継ぎの減少、独居世帯、空き家が増加傾向になっているのが現状で、さらには日本の人口は年間30万人ずつ減少していると言われており、大東町でもその人口減少を肌で感じ取れるようになってきました。

私の所属する商工会青年部では、毎年地域の祭りのイベントに多種多様な形で参加していますが、青年部員それぞれの稼業も年々下降の一途を辿っており、イベントどころではなくなってきているのが現状で、常日頃から何かしなければ、何か打開策はないかと模索していたところ、大東町の連担地にある空き家を利用し、人々が集うきっかけを創り、若者と地域住民がつながる拠点づくりをしてはどうか？という企画の話が部員を通じて私のところに来ました。

全国的にも空き家問題というのはあり、各県、各地域で空き家の再利用の話はよく耳にしていたのと、私自身が木次町の三日市の商店街で三日市ラボという空き家改修に携わった経験もあり、大東町でも可能であればやってみたいと考えていたので、早速話を聞きプロジェクトの立上に参加することにしました。

プロジェクト自体は始まったばかりですが、大枠のコンセプトとしては近年減少している地元の大東高校の生徒が増える事が目的の一つとなっています。大東の町の魅力が溢れ、最先端の情報共有や、社会に出るための多種多様な勉強が出来る場所創りをすることにより、全国から「大東町に行ってみたい」、「大東高校で勉強したい」といってもらえるような地域創りをすることにより、生徒（若者）数が増えれば、次世代育成や様々な相乗効果や経済効果を生むのではと考えています。

このプロジェクトでは、たくさんの可能性があり、行政、他団体や早稲田大学学院生など色々な人達で運営する予定です。またこのプロジェクトに関しては地域や自治会の皆様の協力なしでは実現できません。町内、自治会の皆様、何卒御協力のほどお願い致します。

「西瓜提灯作りの会」

北町　深田 幸悦

大東町最大の夏祭り「大東七夕祭り」で欠かせないものは？　そうです**西瓜提灯**です。

何故、笹竹にスイカなの？　何故、三角（３面）のスイカなの？　等々多くの疑問が寄せられますがその理由はよく分かりません。

でも、七夕祭りには**西瓜提灯**がよく似合います。この最大の伝統行事をいつまでも後世に残すべく大切な役割を担うのが**西瓜提灯**なのです。

西瓜提灯は、私たちが幼いころから先人・先輩から引き継いできた大切な宝物なのです。笹竹に願いを込めた短冊を結び、スイカ提灯に灯をともし行列するのです。

この宝物を後輩達に、将来を担う子どもたちに伝えようと一念発起したのが**「北町提灯作りの会」**なのです。

県内で唯一、約３０年前自治会老人会のメンバー数人で七夕祭りで使用する提灯づくりを始めました。初めは、自治会のために始めたものですが作品の出来栄えが好評となり、今では近隣自治会のみならず、町外からも注文を受けるようになりました。

６年前からは、大東小学校２年生を対象とした課外授業の依頼があり、毎年ミニ西瓜提灯を提供し、メンバー指導の下、親子一緒になって「ミニ西瓜提灯づくり」を体験してもらっています。また、大東保育園にも出向き出前講座、張替等も行っています。

こうした活動が評価され昨年、一昨年とＮＨＫ、ＢＳＳの取材も受けました。

そして今年も活動する時期がやってきました。新しく創作に力が入ります。

大きさは色々あり、ニーズに応じたサイズを作っています。自分も「西瓜提灯飾ってみたい。」と思っている方は、どうぞご一報下さい！！

今年の夏も、自宅の軒端に**西瓜提灯**が揺れる。

まなびの泉

「カフェひだまり」

作業指導員　上代　晴美

皆様こんにちは『ほたるハウス』です。平素より地域の皆様にはほたるの活動にご支援いただきありがとうございます。前回ご紹介したほたるのお菓子も３年目になり、販売のお誘いやイベント用の注文をいただく等、皆さんに喜んでいただいていることがとても励みになっております。

さて、この度ご紹介いたしますのは、雲南市立病院本館に開設され４月２日オープンした「カフェひだまり」です。カフェ事業は、障がい者の就労機会確保や社会参加促進が目的で、県内公立病院に設けられるのは初めてで、市内の３団体が運営します。ほたるハウスは、週２回火曜日と木曜日を担当しています。作業所から「カフェひだまり」に出かけ、多くの方と直接交流することで、緊張したり嬉しかったり、時にはミスやストレスもあるでしょうが、様々な気持ちや気づきを感じたり、いろいろな発見ができる場となりました。この「カフェひだまり」をご利用くださいます皆様のお力も借りて支援できることがとても嬉しく感謝しております。火曜日はほたるの人気のお菓子を持参し、皆様のお越しをお待ちしています。営業は月曜から金曜日の午前１０時～午後３時、祝日は店休日です。

私たちの力が魅力ある地域づくりの一助になればと思います

三刀屋高校３年　林　李奈（新庄西）

私たち中高生の幸雲南塾は休日などを使い地元の事をより沢山の人に知ってもらいたいと、この度地元の高校生が地元の事を発信する情報誌「ジモティーン」を作りました。

今回は雲南市が誇る名産品、「お茶」について藤原茶問屋さんに協力していただきながら取材などを通し雲南の魅力について探りました。実際にお茶を作る過程を見せてもらったりお茶のことを尋ねたりして知らないことを沢山教えていただきました。「お客さんからの信用を１番大切にしています」そう語られた言葉には利益以上に大切なものがあるからだと私は感じました。

また新聞の取材ラジオなど沢山の人に自分達の活動に興味を持っていただいたり街中でも声をかけていただくこともあったりと、私にとってもとても貴重な経験でした。雲南市の事を知るだけではなくこの地域に根付いている繋がりを知り、それに実際に触れることでこの地域の温かさを知ることもできました。

私たちはこれからも雲南市の更なる盛り上がりを願って活動していきたいと思います。私たち中高生が雲南を、地域を支えていける日も近いのではと心を踊らせています。

にがおえでこんにちは！

多数の入会をお待ちしています！

雲南市立病院ボランティアの会会長　石　川　　勝

今回、広報紙「まるこやま」編集担当より「にがおえでこんにちは！」コーナーに投稿依頼があり、雲南市立病院ボランティアの会を紹介する良い機会となりました。

ボランティアの会は平成２１年発足し、当初９名から現在登録者４９名で活動し、３月２２日の新館オープンにあわせ更に新会員を募集中です。（年会費２千円で４月２０日現在１０名の申し込みが新たにありました）

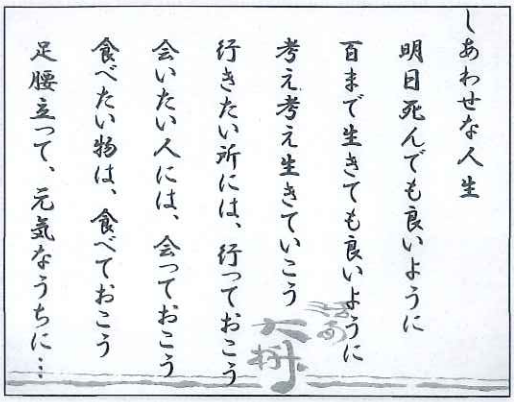
この会の一番人気は玄関での「車いす介助」ですが、その他にも「周辺の草刈」「車いす点検整備」「待合室ベンチ清掃」「病院祭の企画・出演」など多岐にわたります。

私たちは『できるときに』『できる人が』『できることを』を合言葉にこれからも市民に愛される病院、親しまれる病院を目指し、「病院と市民の架け橋になろう」を会の基本方針として頑張っていきます。

近畿大東会

ようこそ関西へ

近畿大東会　通信員　藤原　洋二（金成下出身）



組織に属していると何かと理由をつけてコミュヌケーションならぬノミ(飲み)ュニケーションがある。ノミュニケーションの場＝居酒屋であるが、そこにはいろいろな格言めいたものが額に入れて掲げてあったり、トイレに張り付けられたりしてあるのを見かける。例えば「親父の小言」とかいったもの。

大阪のある場所(出雲出身の方が経営されてるお店)で「しあわせな人生」のタイトルで右上のようなリーフレットがあり、読んでると今の自分に当てはまっているような気がしてならない。

この一文に「会いたい人には、会っておこう」「足腰立って、元気なうち…」とあり、たまには関西でという事で同窓生に声を掛けたら賛同を得た者２９名が集まった。本来は昨年に行う予定であったが事情により出来ず、1年越しの集まりが実現できた。今までの同窓会は玉造温泉等地元が多かったが「一度くらいは関西の空気の中で」ということで関西の奥座敷「有馬温泉」に集合した。内島根からは18名、他は近畿、関東と故郷を離れて住んでいる同窓生計29名のつどいとなった。

（下写真）

昨年10月末に島根で集まったばかりにも関わらず賛同を得たのは、

「しあわせな人生」の一文にあるような気持ちは皆同じだから、言い換えればいつ何があってもおかしくないと自覚しているからこそ、また時には解放されたいの気持ちから行動に繋がったのではないかと思う。

２月初めに某番組で有馬温泉が紹介された。それは“六甲山の北側にあるわずか１Ｋｍ四方の小さなな温泉街に訪れる人は年間１８０万にもおよぶのは何故か？”を追求する内容であったこともあり、当日も平日にも関わらず観光客で多かった。

ここに着く迄にたまった疲れを温泉で流し、夜のノミュニケーションの場となった。数か月振りの再開であるが、関西での催しに皆さんが来てくれたことに感謝して乾杯。

こちらにいては聞けないことを聞いたりし色々な情報が得られた。トワイライトエクスプレス「瑞風」にまつわる話。小学校当時に経験した思い出話。初耳の内容もあり、「へ～」と感じた場面も。

また昨年10月末に集まった以降、２名が他界されたと聞いた。小学校時面影がはっきりと浮かんでくる。

途中歌も入ったりして話は尽きなく時間だけが過ぎ、久し振りの翌日就寝となったが同窓生でしか味わいられない１日となった。

翌朝は島根から来てくれた皆さんを見送って解散。

「次の再開は？」と言ったとき、年齢によるお祝いを基準とした話になれば我々は喜寿。そこまでは待てないとの思いは皆同じと思う。年に1回くらいは気楽に集まりたい。「どげなかい！」と声かけながら。

個々年の同窓生の皆さん。小学校時代の思い出に話を咲かせるのもいいですよ！当時に振り返り楽しみを一つでも増やされてはどうでしょうか。足腰立って元気なうちに。

あいあい募金
ご寄付に感謝致します
事務局 TEL.43-2130

・大東町（新庄南）藤原　晃　様（香典返し）
・大東町（南本町）多久和勇夫　様（香典返し）
・大東町（新庄南）水戸　勝春　様（一般寄付）
・東京都（田中下）内田　真人　様（香典返し）
（故佐藤ヒロ子様義甥）

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただいております。

郷土の暮らしと文化

「大坂屋（おざかや）と社寺」

大東の歴史を探る会　宮澤　明久

大東のなつかしい風景や人々の生活を写した写真がありましたらご提供ください。
（編集委員会）

江戸時代の大東に大坂屋と呼ばれる木村家があった。豊臣氏・堀尾氏に仕えた後、大東の地に居を構えたと伝わる木村家。その大東木村家の初代夫人真野氏の墓と伝えられる古墓が飯田・西方寺にある。商才に恵まれ豪商となり町内の社寺へたびたび浄財を寄進し修復造営に寄与している。

加多神社へは、数度にわたり社殿の修復寄進を行っており元禄２年(1689)の遷宮棟札には、「大坂屋小左衛門」を始め５名の「大坂屋」の名が見える。また文久元年(1861)の社殿修復に際しては姻戚関係にあたる吉田田部家からの太鼓奉納の世話を「大坂屋文左衛門」がしている。

田部家寄進太鼓

菩提寺である宗専寺へは修復に際し度々浄財を寄進しているが、元禄12年(1699)には祖先追善のため梵鐘を寄進している。また享保８年(1723)には阿用蓮華寺へも梵鐘の寄進を行っている。飯田西方寺、高野山、京都東本願寺などの寺院へも祖先追善のためたびたび浄財を寄進しているほか町内の数多くの社寺へも寄進をしている。

享保年間には、度々洪水が発生したため宗専寺下から西流していた清田川の流れをそのまま北流させて赤川へとつなげる工事を行っている。また町内は度々大火により焼失したが嘉永２年(1849)の町上から町下まで270戸が焼失した大火では当家の屋敷も消失した。

その後大正～昭和期には、上大坂屋の１２代当主小左衛門孝督が国会議員として若槻禮次郎内閣の内務大臣などの要職について活躍した。加多神社境内に鎮座している「庚申（こうしん）神社」は当木村家の守り神として屋敷内で祀られていたものが上京に伴い現在の境内地へ遷座されたものである。また拝殿には「神威明照」と記された書が遷座祭の折に奉納されているが、東京木村家とは平成に入り当家が廃絶したため交流はなくなることとなってしまった。

この人に聞く

平田 隆子（ひらた たかこ）さん
（田中下在住）

40代前半から古布を利用した手作りの壁掛けや、暖簾、掛け軸等沢山の作品を作り始め、「古布と遊んで13年」や、「古布のてあそび展」等の個展も開催され、古稀を迎えた今も尚現役の平田隆子さんを自宅に訪ねました。

Q 作成に取り掛かる事前の準備とか心掛けていることは？

日頃から、人との出会いを大切にしているのは勿論ですが、「これだ！」という「布」との出会いも求め、大切にしています。先ずは材料を揃えることが大事です。いつも「これは！」というものを探し、手に入れます。でも殆ど買うことの方が多いですね。そうして揃えた材料を見ながら「こういうものを作ろう。」と題材を決めます。

Q 完成した作品はどのように？

完成するまで数か月もかかったこともありますが、作品は、決して売り物にはしません。だって、値段はつけられないですから。自宅で保管し、数点は玄関や部屋に飾っています。

Q 展示会とかへの出品は？

数回あります。「古布のてあそび展」として「ギフトこばやし」、「健康の森」、「赤名の道の駅」、「中電ふれあいホール」、大きなところでは、「島根県立美術館」でも開催させていただきました。

プロの方が作品を見ながら良い評価をして下さる。それを聞いて「よし！次は、もっと素敵な作品を作ろう！」と気合いも入り、技術も向上して来たと思います。

Q この辺が大変だというところは？

「人に見てもらえる作品」づくりに拘りがあるのでいい加減なことは嫌い。ひとつひとつの工程を大切にしないと最後に狂いが生じます。昼間は、勤務なので夜しかできません。夢中になり夜中までかかることもしばしばです。夜の作業だけどひとつひとつの手間を惜しまず丁寧にやることが大事です。男物の羽織の裏地を利用したり、丸帯を組み合わせたり、風呂敷の柄を利用したり、色合わせも大変です。

（昔から、男物の羽織の裏地には、粋でお洒落な絵柄が多いですよねー。）

Q 懐かしい思い出等は？

役場から依頼があり、リッチモンド市との交流事業で、古布で作った「暖簾」等の作品を手土産として使って頂だいたこともあります。

（ひとつひとつの真心の手作業が交流事業の一役を担っていたんですね。）

玄関を入ると作品の暖簾や掛け軸、お花が愛らしく迎えてくれました。目の手術の後、体調が思わしくなく、思うような仕事ができないと悔しがります。でも、きっとその内「こんなんが出来たよー」と笑顔での連絡が来るはずです。